

災害が少ないとされる地域における 防災マップの作成とその活用

社会基盤デザイン学科 近藤伸也, 山岡暁

◆はじめに

平成26年度より、市町村内の一定の地区の居住者及び事業者（地区居住者等）が行う自発的な防災活動を定める地区防災計画制度が創設された。内閣府防災担当によるガイドラインによると、平常時からの活動の一つとして、災害における地域の強みと弱みを把握する防災マップの作成が必要とされている。災害の少ない栃木県においては、地域住民のみならず地域にあり、かつ防災に関心のある事業者や**学校**の参加による防災マップの作成とその普及が求められる。

地域にある高校生による
防災マップ作成の試み

◆防災マップの作成(小山西高校)

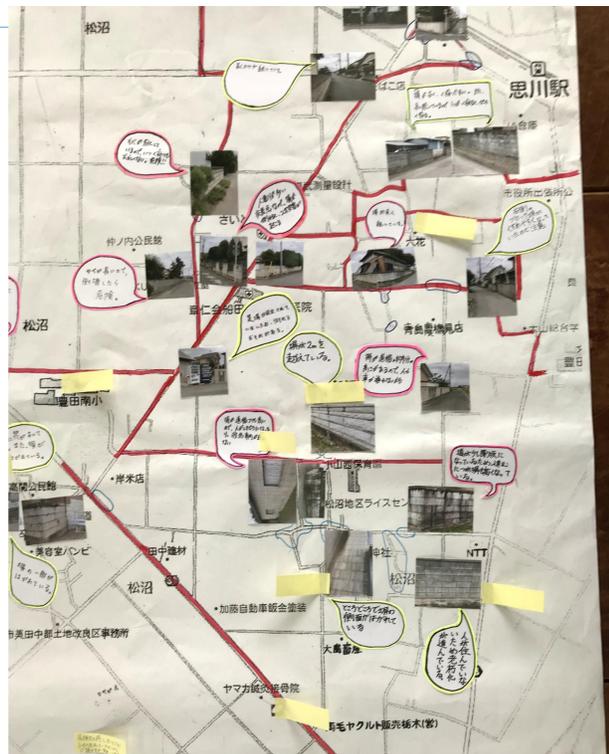


小山西高校と防災マップ対象地域

小山市豊田地区（地震災害）



ブロック塀に着目
(大阪府北部を震源とした地震の影響)



防災マップ（地震災害）

小山市立木・大行寺地区



防災マップの項目を探すのが困難

住民であることを
想定した
タイムライン
の作成

洪水による思川（観見橋）の水位に着目したタイムライン

地域の人に少しでも避難の助けになればと思い
タイムラインを作りました。
タイムラインでは洪水の被害の程度に応じた、住民の取るべき
行動について示されています。その時の被害の大きさに適した
行動を住民の一人一人がとることによりできるだけ多くの人に
安全に避難していただくことができればと思います。観見橋
付近の住民であることを想定したタイムラインを作成しました。

気象・水象情報	小山市	住民
思川水位 2.8m	避難準備呼びかけ	自宅保全 土のう準備 要配慮者避難準備 (健康者が優先)
氾濫注意水位到達 3.4m	対象地区への 避難準備高齢者避難 開始発令	要配慮者避難開始 避難準備(要配慮者以外 近所への声掛け 避難補助)
避難判断水位到達 5.8m	対象地区への 避難勧告発令	避難開始 (小山市第一小学校)
氾濫危険水位到達 6.5m	対象地区への避難 指示(緊急)発令 住民への氾濫情報の 周知	避難完了 最終的な危険回避 行動 ↓ 避難解除

避難準備とは
防災グッズ
水食料ラジオ応急用品(お盆スマホバッテリー)
救急グッズトイレシートガーベラ